

認定特定非営利活動法人
オールしずおかベストコミュニティ

～ 平成 29 年度活動のご紹介 ～

- I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ
- II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ



目次



I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

広報実績一覧 1)新聞	3
広報実績一覧 2)テレビ・ラジオ	4
アピタ静岡店販売会 5月①/伊東ショッピングプラザデュオ「福祉応援フェア」②	5
静岡県を持ち歩くキーホルダー③	6
伊東ショッピングプラザデュオ「福祉応援フェア」④/「とも沼津店」七夕フェア⑤	7
交通安全啓発品⑥/アピタ静岡店販売会 7月⑦/アピタ静岡店販売会 7月⑧	8
アピタ静岡店販売会 7月⑨/パルシェ販売会 春⑩	9
こどもの国販売会⑪/谷島屋書店メイワン本店特設コーナー⑫	10
交通安全啓発品⑬/静岡県授産製品コンクール⑭	11
静岡県授産製品コンクール⑮/三島信用金庫 CSR ⑯/浜松南ロータリークラブ CSR ⑰	12
グランシップ「福祉商品販売会」⑱/「とも沼津店」ハロウィンフェア⑲	13
アピタ静岡店販売会 11月⑳/交通安全啓発品㉑	14
ふじやまラム㉒/富士信用金庫 CSR ㉓	15
ふんどし「Izufun(イズフン)」㉔	16
サントムーン柿田川販売会㉕/パルシェ販売会 冬㉖/静岡伊勢丹 展示会㉗	17
静岡伊勢丹 展示会㉘/松坂屋静岡店 授産品 PR 専用販売台㉙	18
ポッチャ銀杉村さん講演・体験交流会㉚/ポッチャ普及活動㉛	19
パラ銀杉村さん講演・体験交流㉜/静岡信用金庫 CSR㉝	20
ヘルプマーク配布開始㉞/ヘルプマーク配布開始㉟	21
ヘルプマーク無料配布㊱/ヘルプマーク推進フォーラム㊲	22
高松宮妃のおひなさま展㊳/静岡県労働金庫 CSR ㊴	23
磐田信用金庫 CSR ㊵/「とも沼津店」ありがとうフェア㊶	24
「とも沼津店」ありがとうフェア㊷/交通安全啓発品㊸	25
静岡伊勢丹 しずおか授産品ブランド販売会㊹	26
静岡伊勢丹 しずおか授産品ブランド販売会㊺/浜名湖ロイヤルホテル販売会㊻/農福連携しずおか野外マルシェ㊼	27

記事・画像等は新聞社・テレビ局の許諾を得て、日付順に転載しています。

II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

1) 静岡県授産製品コンクール/静岡県障害者芸術祭/静岡伊勢丹コンクール受賞作品展示	28
2) 新春講演会/3) 部会活動 研修情報部会による研修会①②	29
部会活動 研修情報部会による研修会③～⑥/4) 認定 NPO 法人取得	30

広報実績 1) 新聞

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し
①	5/13	静岡新聞		授産製品を販売 駿河区きょうまで 手作り菓子や雑貨
②	5/25	伊豆新聞		あすデュオで福祉応援フェア
③	5/26	中日新聞		持てモテ!? 静岡県 かたどったキーホルダー人気
④	5/27	伊豆新聞		7事業所が商品出品 障害者雇用支援のNPO 応援フェアにぎわう デュオ
⑤	6/24	沼津朝日		とも沼津店で七夕フェア
⑥	7/1	静岡新聞	西部版	まちとぴ【浜北区】就労支援施設が啓発品贈呈
⑦	7/5	静岡新聞		授産製品を販売 14、15日 駿河区
⑧	7/14	静岡新聞		情報ナビ【静岡市駿河区】地域と福祉をつなぐ交流イベント
⑨	7/17	静岡新聞		まちとぴ【駿河区】障害福祉事業所が販売会
⑩	7/20	静岡新聞		福祉事業所の手作り品販売 JR静岡駅ビル内
⑪	7/25	富士ニュース		県内の授産所製品が集合 30日、こどもの国で販売会
⑫	9/2	中日新聞	浜松版	遠州綿紬や天竜杉使い障害者手作り 心込めた商品手に取って 谷島屋書店メイワン本店で来月1日まで
⑬	9/9	中日新聞	浜松版	授産所タオルで交通安全を訴え 浜松SA、23日配付
一	9/21	日本経済新聞		障害者ものづくり支援 松坂屋静岡店 ネットで資金調達
一	9/22	日本産業新聞		障害者ものづくり支援 ネットで資金調達へ 松坂屋静岡店
⑭	10/6	中日新聞		お菓子など力作91点 葵区で県授産製品コンクール
⑮	10/7	静岡新聞		障害者が製作 縫製品など審査 県授産製品コンクール
⑯	10/22	静岡新聞	東部版	まちとぴ【長泉】福祉関係者ら名刺交換など研修
⑰	10/24	静岡新聞	西部版	まちとぴ【浜北区】障害者とスポーツ選手交流
⑱	10/26	静岡新聞		福祉商品販売会 雑貨や菓子1000点 駿河区で20事業所
⑲	10/26	沼津朝日新聞		きょうまでハロウィンフェア とも沼津店で授産製品など販売
⑳	11/4	静岡新聞		市内障害福祉事業所で製作 食品や縫製品を販売 駿河区
㉑	12/10	静岡新聞	西部版	まちとぴ【浜北区】年末の交通安全に授産品一役
㉒	12/13	静岡新聞		この人 県授産製品コンクールで受賞したNPO法人「EPO」の理事長 高橋智さん(富士宮市)
㉓	12/16	富士ニュース		福祉事業所知って 富士信金大淵中野で作品展
㉔	12/16	伊豆新聞		「梅染」で独自ぶんどし 京都の山本さん指導で障害者支援施設「ひかり」 伝統の技継承、利用者自立にも
㉕	12/17	静岡新聞	東部版	福祉事業所の製品 Xマス菓子を販売 清水町
㉖	12/20	静岡新聞		あすまで8事業所 授産製品販売会 静岡駅ビルパルシェ
㉗	12/29	静岡新聞		県コンクール入賞 授産製品を展示 静岡伊勢丹
㉘	12/29	中日新聞		県知事賞など受賞 授産製品コン展示 静岡伊勢丹
㉙	12/29	静岡新聞		授産品PR専用販売台 県障害者働く幸せ創出センター 松坂屋静岡店と作製
⑳	1/11	伊豆新聞		ポッチャ銀・杉村さん 28日、講演と体験交流
㉑	1/27	静岡新聞		ポッチャ 知名度向上を リオパラ銀・杉村さん(伊東) 普及活動
㉒	1/29	伊豆新聞		パラ銀 伊東の杉村さん講演 ポッチャ体験交流も
㉓	2/6	静岡新聞		ふるさと貢献賞 積み重ね地域の力に 静岡信用金庫(静岡市葵区) 障害者の自立を支援
㉔	2/6	静岡新聞	西部版	「ヘルプマーク」配布開始 浜松市 独自のカード導入検討
㉕	2/6	中日新聞		見えない障害に配慮 県、ヘルプマーク配布開始
㉖	2/7	静岡新聞		ヘルプマークを無料配布 県、35市町などで1万個 14日に利用促進フォーラム
㉗	2/15	静岡新聞		ヘルプマーク周知を考える 静岡でフォーラム
㉘	2/19	静岡新聞		故高松宮妃 京びな展示 グランシップ来月4日まで 調度品600点も
㉙	3/1	静岡新聞		就労支援NPOに県労金が寄付金
㉚	3/7	中日新聞		障害者のアート楽しんで 磐田で絵や人形など100点展示
㉛	3/16	静岡新聞	東部版	まちとぴ【沼津】きょうまで授産品フェア
㉜	3/16	沼津朝日新聞		とも沼津店、ありがとうフェア きょう、人気の商品限定販売も
㉝	3/18	静岡新聞	西部版	まちとぴ【浜北区】交通安全啓発に授産品採用
㉞	3/21	中日新聞		授産品ブランド10品追加 遠州綿紬カードケース、リールキーセットなど きょうから静岡伊勢丹で販売
㉟	3/21	静岡新聞		県認定授産品そろろう 静岡伊勢丹きょうから 菓子や雑貨販売
㊱	3/22	静岡新聞	西部版	朝市で授産品販売 25日に西区
㊲	3/22	静岡新聞		施設利用者生産 野菜、ジャム販売 静岡でマルシェ

広報実績 2) テレビ・ラジオ

No	放送日	媒体	社名	内容
1	5/12	ラジオ	FM-Hi	「ひるラジ! 静岡情報館」 街角リポートへ出演 アピタ静岡店 地域と福祉をつなぐ交流イベントの案内
2	1/19	ラジオ	FM-Hi	「ひるラジ! 静岡情報館」 オールしずおかベストコミュニティと新春講演会を案内
3	1/28	テレビ	SBS テレビ	17:30～ ニュース番組「Nスタ」静岡 ポッチャ銀・杉村さん
4	1/28	テレビ	静岡朝日テレビ	17:30～ ニュース番組「ANN スーパー」チャンネル」静岡 ポッチャ銀・杉村さん
5	2/18	テレビ	NHK 静岡	総合 011 12:00～、18:00～、他 ニュース番組 高松宮妃のおひなさま展

授産製品を販売

駿河区 きょうまで
手作り菓子や雑貨

県内の障害者福祉サービス事業所の授産製品販売イベントが12日、静岡市駿河区のアピタ静岡店で始まった。障害者の就労支援などを取り組むNPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市葵区）の主催で、13日まで。

計13事業所がそれぞれブースを設け、利用者が手作りしたクッキーなどの菓子やバッグなどの雑貨を販売している。親子で楽しめるビーズアクセサリー作りの体験コーナーもある。同法人中部地区センター長の正守利彦さん(57)は「製品はどれも事業所の利用者が丁寧に作っていて品質が



県内の障害者福祉サービス事業所利用者の授産製品が並ぶ販売イベント
＝静岡市駿河区のアピタ静岡店

高い。手にとってみてほしい」と呼び掛けている。

① (平成 29 年 5 月 13 日・静岡新聞)

あすデュオで
福祉応援フェア
障害者に関わる事業を展開するNPO法人オールしずおかベストコミュニティは、26日午前10時から、伊東市玖須美元和田の伊東シヨッピングプラザデュオで「福祉応援フェア」を開催する。県東部7事業所が参加し、授産製品の販売、活動内容の紹介を行う。

会場はデュオ1階、食品売り場内旧サービスカウンター前。問い合わせは同NPO東部センター(電055(963)9100)へ。

参加事業所と販売品目は次の通り。中伊豆リハビリあゆみ(木のおもちゃ、縫製品)▽ワークセンターやまも(菓子、さをり織り製品、日用雑貨)▽碧の園(ボトル入りせっけん、布・ビーズ雑貨)▽工房うさみ(陶芸品、縫製品)▽喫茶オレンジ(菓子)▽おおはら(日用雑貨、刺しゅうタオル、陶芸)▽エー(紙すき製品、着物クッション、工芸品)

② (平成 29 年 5 月 25 日・伊豆新聞)

持てモテ!?! 静岡県

かたどったキーホルダー人気

静岡県の形は指に引っ掛かって持ちやすい。こんなユニークな発想から生まれた県の地図をかたどったキーホルダーが観光客に人気だ。作っているのは静岡市駿河区光陽町の障害者就労施設「ラポール川原」の利用者たち。JR静岡駅構内の商業施設などで、月に百個を売り上げている。

(瀬田貴嗣)



①キーホルダーの色を塗るラポール川原の利用者。静岡市駿河区で②製作したキーホルダー

就労施設利用者が製作



商品名は「静岡県をもち歩くキーホルダー」。南北(縦)約四色別に静岡の名物を題材、東西(横)約六材にした「さくらえび」「伊豆半島部分がピンク」「お茶グリーン」「富士山ブルー」などに引っ掛けやすく「みかんオレンジ」の穴は浜名湖を連想させる。ラポール川原の利用者八人が彩色、研磨、オイル塗り、袋詰めや、買ってくれた人が静岡に親しみを持てる商品を作りたい」と考案。大きさや厚みなどの仕様は利用者と相談の完成度が評価され、静岡市のNPO法人が主催する二〇一六年度県授産品コンクールで「理事長賞」を受賞した。

材料には浜松市天竜区の障害者施設で加工、成形された県産ヒノキ材を使っている。キーホルダー作りは「利用者八人が彩色、研磨、オイル塗り、袋詰めや、買ってくれた人が静岡に親しみを持てる商品を作りたい」と考案。大きさや厚みなどの仕様は利用者と相談の完成度が評価され、静岡市のNPO法人が主催する二〇一六年度県授産品コンクールで「理事長賞」を受賞した。

顔になってもらいたい」と話す。作業にも慣れ、二時間で二十個を塗るまでになった。

キーホルダー作りは「利用者八人が彩色、研磨、オイル塗り、袋詰めや、買ってくれた人が静岡に親しみを持てる商品を作りたい」と考案。大きさや厚みなどの仕様は利用者と相談の完成度が評価され、静岡市のNPO法人が主催する二〇一六年度県授産品コンクールで「理事長賞」を受賞した。

彩色を担当する勝美通さん(21)駿河区鎌田は「作業はリズム感があって楽しい。手

③ (平成 29 年 5 月 26 日・中日新聞)

※静岡県授産品コンクールは、当法人が主催しております。

障害者雇用支援を行うNPO法人オールしずおかベストコミュニティは26日、伊東市玖須美元和田の伊東ショッピングプラザ・デュオで「福祉応援フェア」を開催した。今回で4度目。会場には7事業所が出店し、買い物客



来場者に商品の試飲を勧めるスタッフ＝玖須美元和田の伊東ショッピングプラザ・デュオ

7事業所が商品出品

障害者雇用支援のNPO 応援フェアにぎわう

デュオ

る来場者が多く見られ

④ (平成 29 年 5 月 27 日・伊豆新聞)

た。同NPO支援部の竹村寿美東部地区センター長は「来場者には工賃の安さを知り、身近な社会貢献として買い物をしてほしい。この経験を障害者の就労に役立てたいと話した。同NPOは清水町のサントムーン柿田川でもフェアを開催している。今後もショッピングモールなどで活動を行い、地域に浸透させていくという。

とも沼津店で七夕フェア
きょうまで授産製品の販売など
沼津駅南口前の沼津商連会館ビル一階、とも沼津店は「七夕フェア」を、きょう二十四

日まで同店前の一階ギャラリーで開いている。千円以上の購入者に織姫と彦星をプリントしたクッキーをプレゼントしている。
同店はNPO法人オールしずおかベストコミュニティの委託を受けて社会福祉法人共



県東部地域の福祉施設の授産製品などが並ぶ会場＝沼津商連会館ビル1階で

サービス事業所六カ所が授産製品を持ち寄り、パン、縫製雑貨品、焼き菓子、プリンやジェラートなどを販売しているほか、ワンコインマッサージもある。
また、笹竹を置き、来場者が自由に短冊に願いごとを書いて飾れるようにしている。
営業時間は午前十時から午後四時。

生会が運営。県東部の障害者施設で作った授産製品を中心に販売するとともに、「二百円カレール」などを提供している。
福祉施設で製作する授産製品について、より多くの人を知ってもらおうと年三回、とも沼津店を拡大してフェアを開いており、今回は二十三、二十四日の二日間開催。
県東部地域の福祉

⑤ (平成 29 年 6 月 24 日・沼津朝日新聞)

るのに役立つ」と話した。

浜北区 就労支援施設が啓発品贈呈

浜松市北区の就労支援施設「だんだん」は29日、利用者が作製した交通安全啓発の遠州綿紬のキーリングを中日本高速道路浜松保全・サービスセンター(浜北区)に贈った。同センターは夏の交通安全県民運動期間中の7月14日、県警高速隊などと東名高速道浜松インターチェンジ(東区)で運転者に配る。



同施設はNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」から紹介を受けて交通安全のメッセージ入りの紙を添えたキーリング200個を用意した。同センターで施設利用者から受け取った上崎裕所長(写真左)は「交通事故を1件でも減らせるようにドライバーに呼び掛け

⑥ (平成29年7月1日・静岡新聞)

授産製品を販売
14、15日駿河区
NPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区)は14日と15日の午前10時〜午後6時、静岡市駿河区のアピタ静岡店で、県内障害福祉サービス事業所の授産製品販売会を開く。
県授産製品コンクールで受賞したキーホルダーや、百貨店で売り切れ続出のパウンドケーキなどを販売する。15日は缶バッジや木を使った子ども向けのものづくり体験会を開催する。
問い合わせは同法人△電054(251)3515▽へ。

⑦ (平成29年7月5日・静岡新聞)

情報ナビ

【静岡市駿河区】■地域と福祉をつなぐ交流イベント 14、15日 10〜18時、アピタ静岡店▽市内11カ所の障害者福祉事業所による手作りパンや雑貨などの展示販売やものづくり体験会を行う▽問い合わせはNPO法人オールしずおかベストコミュニティ<電054(251)3515>

⑧ (平成29年7月14日・静岡新聞)



の商品レベルの高さを多くの人に実感してもらいたい」と話した。

駿河区 障害福祉事業所が販売会

静岡市葵区のNPO法人オールしずおかベストコミュニティは市内11カ所の障害福祉事業所による販売会とものづくり体験会を14、15の両日、同市駿河区のアピタ静岡店で開いた＝写真＝。

各事業所で製造されているパンやクッキーなどの食品からハンカチやキーホルダーといった雑貨まで多彩な商品が並んだ。ものづくり体験会では、子どもたちがうちわや缶バッジなどの製作を楽しんだ。

正守利彦中部地区センター長は「福祉事業所

⑨ (平成 29 年 7 月 17 日・静岡新聞)

福祉事業所の
手作り品販売
JR静岡駅ビル内
静岡市内の福祉事業所の製品を集めた「夏の販売会」(NPO法人オールしずおかベストコミュニティ主催)が19日、JR静岡駅ビルパルシェで始まった。21日まで。

市内9事業所の利用者や職員が浴衣の生地



手作りの部屋着を見る買い物客
＝静岡市葵区のJR静岡駅ビルパルシェ

を再利用した部屋着や竹製のタンブラー、クッキーなど手作りの商品約100種類を出品、販売している。販売会は障害のある人や福祉事業所の支援活動に取り組んでいる同法人が毎年、開いている。同法人中部地区センター長の正守利彦さん(57)は「手作りのぬくもりだけでなく、障害のある人が品質の高い商品を作り社会参加する姿を見てほしい」と話した。

⑩ (平成 29 年 7 月 20 日・静岡新聞)

県内の授産所製産品が集合

30日、こどもの国で販売会

県は30日(日)、県内の3授産所による製品の販売会を富士山こどもの国(富士市桑崎)で開く。午前10時～午後4時。

NPO法人オールしずおかベストコミュニティが運営。出品は▽

品を販売する。ステツブ・ワンは、「しずおか農林水産物認証」のリーフレタスを使用したハンバーガーや朝採り野菜を販売し、羊毛のコースター作りのワークショップも行う。問い合わせはNPO法人オールしずおかベストコミュニティ(☎054125113515)。

ステツブ・ワン(御殿場市)▽EPO FARM(富士宮市)▽はじめの一步(富士市)。羊毛を使ったコースターやヒノキの入浴剤、ビーズストラップなど、障害のある利用者が心を込めて作った製

① (平成 29 年 7 月 25 日・富士ニュース)

遠州綿紬や天竜杉使い 障害者手作り

浜松市中区砂山町の谷島屋書店メイワン本店に1日、就労支援事業所に通う障害者が作った雑貨の特設コーナーが設置された。10月1日まで販売する。(飯田樹与)



障害者が手作りした製産品が並ぶ特設コーナー
浜松市中区の谷島屋書店メイワン本店で

心込めた商品手に取って

谷島屋書店メイワン本店で来月1日まで

店内カフェの横に、浜松、掛川両市内にある計九つの障害者就労支援事業所が出品した約七十種類の雑貨が並ぶ。遠州綿紬のペンケースやブックカバー、天竜杉の問伐材を利用した割り箸やマグネットなど地元特産品を使った雑貨のほか、浜松市のマスコットキャラクター「出世法師直虎ちゃん」のイラストが印刷された製品もある。

県の委託を受けたNPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市)の取り組みで今年で八回目。毎年、県西部の大型ショッピングセンター内にある谷島屋書店で開催している。NPO法人によると、県内の障害者一人当たりの一カ月平均工資は一万五千円弱。製品の売り上げは工資に充てられるため、広く製品を知ってもらい、工資アップを目指す。

NPO法人の河島美津夫・西部地区センター長(☎)は「利用者が一生懸命心を込めて作った商品をぜひ手に取っていただきたい」と来場を呼び掛けている。

② (平成 29 年 9 月 2 日・中日新聞)

**授産所タオルで
交通安全を訴え**
浜松SA、23日配布

浜松市北区の障害者
就労支援施設「引佐草
の根作業所」の授産製
品「写真」が、秋の全
国交通安全運動（二十
一〜三十日）期間中の
イベントの啓発品に採



用された。
縦、横とも三十五センチ

ほどのハンドタオルで「出世法師直虎ちゃん」がデザインされている。作業所の利用者が、タオルの下の部分に幅約四センチの遠州綿糸を縫い付けた。

同市浜北区の中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンターが、二十三日午前十時から区内にある新東名上り線浜松サービスエリア内で開くイベントで、二百枚をドライバールーに配る。

七日に同センターで引き渡し式があり、作業所の代表がセンターの上崎裕所長（む）に手渡した。

同センターと作業所は、県の委託を受けたNPO法人オールしずおかベストコミュニティが取り持った。

（宮沢輝明）

⑬（平成 29 年 9 月 9 日・中日新聞）

お菓子など力作91点

葵区で県授産製品コンクール

第二十回県授産製品コンクールが五日、静岡市葵区の「障害者働く幸せ創出センター」で開かれた。県内の障害者が働く五十八の福祉事業所が、計九十一点を出品。製品を購入する店などの関係者が、食品や縫製品など五部門で県知事賞など

第二十回県授産製品を選んだ。各事業所で働く障害者が作っている製品が作っている製品が、富士山の形の「輪挿しや動物をかたどったクッキー」、天然素材で染めたふんどしなど多彩な力作が出品された。審査をした人たちは試食したり触ったりしながら、見た目や品質などを百点満点で評価していた。

今回は二十回目を記念し、事業所に加えて特別支援学校の生徒が作った陶芸や布製品も展示された。

受賞製品は十一月にある県障害者芸術祭で表彰され、静岡伊勢丹（葵区）や松坂屋静岡店（同）などのイベントで販売される。主催したNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」の鈴木良夫



裾野市のみどり作業所が出品した「富士山マドレーヌ」＝静岡市葵区で

「ユニティ」の鈴木良夫事務局長は「事業所の工夫で品質がとても高くなってきている。さまざまな場で販売することで、障害者の工賃の上昇につなげたい」と話した。（垣見窓佳）

各部門の県知事賞は次の通り。

食品 ベンチチョコラ（ラポール・タスカベンチタイム）静岡市駿河区▽縫製品 Book型お菓子帳・通帳入れ（みどり作業所）裾野市▽陶芸・木製品 エックシェイカー（草笛共同作業所）すなみ作業場（菊川市）▽雑貨品 カードケース、リールキーセット（多機能型事業所）だんだん（浜松市北区）▽作品 メモ帳（東部すみれの家）藤枝市

⑭（平成 29 年 10 月 6 日・中日新聞）

**障害者が製作
縫製品など審査**
県授産製品コンクール

県内の福祉事業所の障害者が作った製品を審査する「県授産製品コンクール」(NPO法人オールしずおかベストコミュニティ主催)が5日、静岡市葵区で開かれた。

授産製品の品質向上を目的に毎年開かれ、今年で20回目。県内58事業所が食品、縫製、木工製品、雑貨品など計91点を出品した。調理専門学校教員や百貨店のバイヤーら16人が審査員を務め、表現力や価格設定などをポイントに採点した。今回は



授産製品の品質などを採点する審査員
=5日、静岡市葵区

初めて特別支援学校の生徒が製作したバッグや箸置きなどの作品26点も展示し、人気投票を行った。

審査委員長を務めた静岡大の大村知子名誉教授は「デザイン性や技術力が年々向上している。事業所の生産環境の整備も進んでいる」と評価した。

知事賞の製品は次の通り(かっこ内は事業所名)

- 食品 「ベンチチョコラ」(ラポール・タスカ ベンチタイム)
- ▽縫製品 「Book型お薬手帳・通帳入れ」(みどり作業所)
- ▽陶芸・木製品 「エッグシェイカー」(草笛共同作業所)
- しずなみ作業場)▽雑貨品 「カードケース、リールキーセット」(多機能型事業所)だんだん)▽作品 「メモ帳」(東部すみれの家)

⑮ (平成 29 年 10 月 7 日・静岡新聞)

長泉 福祉関係者ら名刺交換など研修

三島信用金庫は20日、県東部を中心とする福祉施設の職員や利用者を対象にしたビジネスマナー研修を長泉町下土狩の同信金本部で開いた



=写真=。

信金職員があいさつや身だしなみなど基本的なビジネスマナーを説明した。職員の実演を手本に、参加者がお辞儀や名刺交換を練習した。

研修は企業の社会貢献(CSR)活動と福祉施設や障害者団体などのニーズをマッチングする県の「企業CSR連携促進事業」の一環。委託を受けた静岡市の「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」がマッチングした。

⑯ (平成 29 年 10 月 22 日・静岡新聞)

浜北区 障害者とスポーツ選手交流

浜松南ロータリークラブ(RC)は21日、障害者とプロスポーツ選手らとの交流行事を浜松市浜北区の浜北総合体育館で開いた。

知的障害のある市内の約90人が体を動かして楽しんだ。陸上やサッカー、バスケットボールのコーチらから競技の基礎の指導を受けた。プロボクサーの伊東雅雪選手には、グローブを付けてパンチを打つ体験も楽しんだ=写真=。



同RCは会場で、ポリオ(小児まひ)撲滅の掲示物展示やチラシ配布などで啓発活動も行った。

⑰ (平成 29 年 10 月 24 日・静岡新聞)

※静岡県「企業CSR連携促進事業」の一環で、当法人が浜松南ロータリークラブ様と共同で主催した交流会です。

**福祉商品販売会
雑貨や菓子1000点
駿河区で20事業所**

「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」は25日、静岡市駿河区のグランシップで「福祉商品販売会」を開いた。県中部を中心に障がい福祉サービ



県中部を中心に20の福祉事業所が集まった「福祉商品販売会」＝静岡市駿河区のグランシップ

スを提供する20事業所が参加し、手作りの縫製品や雑貨、菓子などを販売した。

夏ミカンの皮を練り込んだ焼き菓子や機械り機を使って丸い白掛け編んだ靴下など千点以上の商品が並んだ。このほか、ピースのキーホルダーやリッ

⑱ (平成 29年 10月 26日・静岡新聞)

プクリーム入れなどかわいいた雑貨が来場者の心を温めた。

同NPO法人中部地区の正守利彦センター長は「授産製品という言葉に違和感があり、福祉商品という言葉にこだわった」と趣旨を話した。

きょうまでハロウィンフェア

とも沼津店で授産製品など販売

沼津駅前口の沼津商連会館ビル1階、とも沼津店は「ハロウィンフェア」を、きょう二十六日まで同店前の一階ギャラリーで開催している。

同店はNPO法人

オールしずおかベストコミュニティの委託を受け、社会福祉法人共生会が運営。県東部の障害者施設で作られた授産製品を中心に販売するとともに、「二百円カレー」などの飲食のメニューが人気を呼んでいる。

同店は企業等から授

産品の委託生産を受けつける窓口にもなっており、ここで注文を受け、各施設が、依頼に基づきデザインで製作した授産品を納入。観光地などで販売し、好評を得ているという。

フェアは年三回開き、各施設で授産品の一部を紹介。今回は県東部の福祉サービス事業所六カ所がハロ



ハロウィンにちなんだ福祉施設の授産製品が並ぶ＝沼津商連会館ビル1階で

⑲ (平成 29年 10月 26日・沼津朝日新聞)



多彩な種類の商品が並ぶ販売会
＝静岡市駿河区のアピタ静岡店

静岡市駿河区のNPO法人オールしずおかベストコミュニティは2日、市内の障害福祉事業所4カ所で作成した商品の販売会を同市駿河区のアピタ静岡店で開いた。パウンドケーキやクッキーなどの食品、カードケースやポーチといった縫製品など、利用者ら手作りの多彩な商品を販売した。来場客は興味深そうに商品に見入った。

市内障害福祉事業所で製作 食品や縫製品を販売

駿河区

② (平成 29 年 11 月 4 日・静岡新聞)

同コミュニティ支援商品の買ってもらえ部の正守利彦中部地区センター長は「利用者の心のこもった（社会部・吉沢光隆）た。」と話した。



浜北区 年末の交通安全に授産品一役

浜松市北区の引佐草の根作業所が作る、市のキャラクター「出世法師直虎ちゃん」がデザインされたハンドタオルが、15日から始まる年末の交通安全県民運動で中日本高速道路の啓発品に採用された。利用者らが7日、同市浜北区の同社浜松保全・サービスセンターで、同センターの上崎裕所長に手渡した＝写真＝。

県内授産所の工賃水準向上に取り組むNPO法人オールしずおかベストコミュニティの紹介を受け、同作業所はタオル200枚を用意。タオルは遠州綿つむぎを一部使用していて、包装には「追突注意」「十分な車間を保とう」と安全

運転を呼び掛けるシールを貼っている。

タオルは15日に同市東区の東名高速道浜松インターチェンジ入り口で、同社や県警が行う交通安全イベントで配布する。

② (平成 29 年 12 月 10 日・静岡新聞)

② (平成 29 年 12 月 13 日・静岡新聞)

※静岡県授産製品コンクールは、当法人が主催しております。

県内58事業所から約90点の授産製品の応募があったコンクールに参加。出品事業所による人気投票で決まる賞に、富士山の麓で育てた羊肉の加工品ブランド「ふじやまラム」が選ばれた。福岡県出身。50歳。

— NPOの活動は。

「2009年に障害者の就労支援事業を目的に発足。現在は障害者らと育てた羊肉を使用した食品の販売のほか、乗馬を活用した障害児の放課後デイサービスや親の子育て支援などにも取り組んでいる」

— 羊肉の加工品のこだわりは。

県授産製品コンクールで受賞したNPO法人「EPO」の理事長

たかはし さとり さん (富士宮市)
高橋 智

この人



「羊肉の最高品質とされる『サウスタウン種』を主体にした独自ブランドの羊を生産している。脂に甘みとうま味があり、柔らかく芳醇(ほうじゅん)な香りの肉質が特徴。生ハムやベーコン、ソーセージなどを販売している」

— 事業の心遣いは。

「各地のイベントで販売したり、食品販売会社と取引したりできるようにしてきた。採算が取れるようになるにはまだ時間が必要だが、徐々に認知度は上がっている」

— 今後の目標を。

「授産製品としてはなく、一般の商品と同じ品質にこだわって作っている。売り上げを障害者の生活の支えにできるように事業を成長させたい。障害者と健常者が一緒に活動できる場を提供していきたい」

◇ NPOの農場内ではカフェも運営している。

福祉事業所知って 富士信金大淵 中野で作品展

富士市中野の富士信金大淵中野支店で、大淵地区の障害者福祉事業所の利用者による絵画や陶芸を集めた作品展が開かれている。

20日(水)まで、午前9時～午後5時。出展事業所は▽くすの木学園▽富士見学園▽きぼうの里で、利用者が余暇や作業実習で培った技術を生かした多彩な作品約30点を出品している。

くすの木学園は、これまで制作したペーパーフラワーや陶器の平皿、箸置き、同施設が製造販売を手掛ける

トイレットペーパーなどを展示。きぼうの里は、県知的障害者福祉協会主催の愛護ギャラリーで銀賞に選ばれた絵画とちぎり絵の3作品を披露している。

作業実習で木材加工にも取り組む富士見学園からは、木材から削り出した干支(えと)の置物や積み木をはじめ、赤い布を星型に縫製したパーツを組み合



3施設の利用者による作品が並ぶ会場

わせたクリスマスツリー、利用者が合作したサンタとトナカイのちぎり絵、和紙を丸めて立体感を出しながらヒマワリを描いた「夏」を紹介している。

20日午後1時からは、事業所の利用者や職員が来店して作品を紹介するほか、各事業所についてのPR活動も展開する。

作品展は同庫が主催。県内作業所の工賃水準向上支援などを通じ、障害の有無にかかわらず安心して生活できる社会の実現を目指すNPO法人オールしずおかベストコミュニティ(東部地区センター)が共催している。

同センターの竹村寿美さんは「一般の美術品や工芸品とは違う色使いや世界観、作品の持つぬくもりを楽しんでほしい」と来場を呼び掛けた上で、「地域住民にも自分たちが住む地域に事業所があること、どのような活動をしているのかを知る機会にしてみたら」と期待を込める。

③ (平成 29 年 12 月 16 日・富士ニュース)

京都の山本さん指導で障害者支援施設「ひかり」 伝統の技継承、利用者自立にも

「梅染」で独自ふんどし

伊東市川奈の障害者支援施設「ひかり」の就労支援施設「梅工房ひかり」（生田一夫代表）は、古来より伝わる「梅染」を復活させた京都の染織家、山本晃さん（74）の指導を受けてオリジナル製品を開発し、全国から注目を浴びている。開発した製品はふんどし「Izurun（イズフン）」。「このほど、県からしずおか授産品ブランド化推進事業」の対象製品にも選ばれた。

梅染は梅の木などを煮出した染料で布を染める技法。生田代表は

7年前に山本さんの作りに感銘を受け、後継者がいない梅染の技を後生に伝えることと、約30人の利用者の自立を目的に今年7月、制作を始めた。染色の材料は全て伊豆地域から

調達したり、同施設が畑で育てたりした材料を使用している。

現在、山本さん指導下、利用者と職員の6人が制作に当たっている。今後、他の利用者も加わり、制作数を増やす予定。生田さんは「高品質な製品を利用者」と作り、全国に誇れるブランドを築きたい」と話した。

②4（平成29年12月16日・伊豆新聞）

※しずおか授産品ブランド化推進事業は、静岡県より委託を受け当法人が各福祉事業所の意向に則した専門家を派遣し、さらに魅力のある商品を目指して改良を行う個別支援を行いました。



梅染の制作指導に当たる山本さん（左）と生田さん（右）川奈の梅工房ひかり

福祉事業所の製品
Xマス菓子を販売

清水町

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ東部地区センターは16日、清水町のサントムーン柿田川で東部地区の障害福祉サービス事業所で作られた製品の販売会を開いた。

富士宮、沼津、三島市内の9カ所で作られたマドレーヌやラス



事業所で作られた焼き菓子などが並んだ販売会
＝清水町

クなどの焼き菓子のほか、プレスレットや自前に控えたクリスマスグッズなど10種類超の製品を出品した。各事業所で働く人たちの工賃アップが狙い。各事業所のスタッフがサンタクロースの帽子をかぶるなどして季節感を出した。

写真立てにパーツを飾り付けるワークショップも併せて行った。

②⑤ (平成29年12月17日・静岡新聞)

あすまで8事業所
授産製品販売会
静岡駅ビルパルシェ

静岡市内の障害者福祉サービス事業所の授産製品販売会(NPO法人オールしずおかベストコミュニティ主催)が19日、JR静岡駅ビル「パルシェ」食彩館で始まった。21日まで。

8事業所の利用者が作った焼き菓子や雑貨など約300種類の授



静岡市内8事業所の授産製品が並ぶ販売会
＝JR静岡駅ビル「パルシェ」食彩館

産製品が並ぶ。クリスマスをモチーフにした絵柄のコースターや手編みのリース、正月飾りなど季節感のある商品も販売している。織りのカラフルな布で製作したバッグやポーチなど手の込んだ商品もあり、訪れた人たちが見入っていた。

授産製品を購入した同市清水区の望月たみ子さん(70)は「アイデア豊かな商品はばかり」と話した。

②⑥ (平成29年12月20日・静岡新聞)

県コンクール入賞
授産製品を展示

静岡伊勢丹

県内の障害福祉サービス事業所などで作られた授産製品を審査する「県授産製品コンクール」の受賞製品展示会が30日まで、静岡市葵区の静岡伊勢丹で開かれている。

展示しているのは、コンクールに応募のあった17点から選ば



多様な授産製品が並ぶ展示会
＝28日午後、静岡市葵区の静岡伊勢丹

れた24点。チョコレートケーキ「ベンチチョコラ」や、しいたけせんべい、通帳入れ、トートバッグなど多様な作品が並び、来場者を楽しませている。

※「県授産製品コンクール」の受賞製品展示会は、当法人が主催しました。

②⑦ (平成29年12月29日・静岡新聞)

県知事賞など受賞
授産製品コン展示
静岡伊勢丹
静岡市葵区の静岡伊勢丹で、十月の県授産製品コンクールで県知事賞などを受賞した製品の展示会が開かれている。二十日まで。菊川市の草笛共同作業所しずなみ作業場が作った卵の形の馬拉カス「エックシエイカー」、浜松市北区の多機能型事業所だんだんが作った遠州綿紬のカードケース、裾野市のみどり作業所が作った「Book型お薬手帳・通帳入れ」などが展示されている。主催したオールしずおかベストコミュニティの担当者には「デザインや質の良い製品をぜひ知ってもらいたい」と話した。会場では購入できない



カードケースやお菓子などを紹介している展示スペース＝静岡市葵区の静岡伊勢丹で

いが、製品によっては県総合社会福祉会館シズエル（葵区）にある「とも静岡店」で販売されている。問い合わせはオールしずおかベストコミュニティ＝電054（251）35151へ。
（垣見悠佳）

㊸（平成 29 年 12 月 29 日・中日新聞）



クラウドファンディングで作製した授産品をPRする販売台＝28日午後、静岡市葵区の松坂屋静岡店

松坂屋静岡店（静岡市葵区）と、NPO法
人オールしずおかベ
ストコミュニティが管理

授産品PR専用販売台

県障害者働く幸せ
創出センター 松坂屋静岡店と作製

・運営する県障害者働く幸せ創出センターはこのほど、同店で授産品を扱う際に商品を効果的にPRする専用の販売台を作製した。2018年3月から同店北館けやき通り口で月に1度催す授産商品の展示即売イベントで主に活用する。これまでも店内でのイベント時に授産品を扱ってきた同店側が「展示の見栄えも良くないと客の目に留まらない」と提案し、インターネットを通じたクラウドファンディング

で資金を募った。17年9月から10月まで1カ月間募集したところ、目標額25万円に対し26万1千円が集まった。展示台は幅1・8メートル・2メートルの2サイズ。大人の腰の高さほどに商品を展示できるようにし、屋外カフェ風をイメージしてデザインした。同店営業部の落合功男さんは「授産商品をどうしたらアピールできるか見せ方を工夫したかった」と話す。NPOの松井昌男支援課長は「販売台の効果で今まで授産品を手取る機会が少なかった若者世代にもターゲットを広げていければ」と期待する。

㊸（平成 29 年 12 月 29 日・静岡新聞）

ポッチャ銀・杉村さん 28日、講演と体験交流

ずおかベストコミュニティ

NPO法人オールしずおか

ティ東部地区センター(沼津市)は28日、伊東市首無町の伊豆介護センターで、リオアデジャネイロ・パラリンピックのポッチャ競技団体銀メダルの杉村英孝選手(35) 同市 による、2020年東京パラリンピックに向けての講演会と、ポッチャの体験交流会を開催する。

③⑩ (平成30年1月11日・伊豆新聞)

同NPOはポッチャの認知度向上と、障害がある人に夢を実現する素晴らしさを伝えるため企画した。杉村さんは「より多くの人にポッチャに関心を持ってもらいたい」と、参加を呼び掛けている。入場無料で定員40人。開催時間は午前10時～正午。希望者は27日までに同センター(電0557(36)9069)に申し込む。

ポッチャ 知名度向上を

リオパラ銀・杉村さん 伊普及活動

リオアデジャネイロ・パラリンピックのポッチャ団体で銀メダルを獲得した杉村英孝さん(35) 伊東市 が、県内での競技の知名度向上を目指すイベントを精力的に開催している。試合や大会がないオフ期間に当たる1～2月、県内の小学校や特別支援学校などで講演や体験会を相次いで開く。杉村さんは「もつと大勢の人に注目してもらおう中で、2020年の東京大会を迎えられたら」と意気込む。

ポッチャの魅力について杉村さんは「子どもも大人も、障害者でも気軽に楽しめる」と紹介。リオ大会でのエピソードを語ったり、高度な投球術の実演を披露したりした。同校の矢田真則校長(58)は「世界で戦う選手の言葉を聞いて、子どもたちは刺激を受けたはず。大きな夢を持つ大切さや学んでほしい」と期待を寄せた。

伊豆の国市立長岡南小で25日に開かれた体験会。約80人の6年生は杉村さんからポッチャのルール説明を受けた後、対戦ゲームに挑戦した。真剣な表情で投球し、目標球に寄せることができると歓声を上げてはしゃいだ。



児童にポッチャの楽しさを伝える杉村英孝さん(左) 25日、伊豆の国市立長岡南小

③⑪ (平成30年1月27日・静岡新聞)

※交流イベントは、当法人が主催いたしました。

日に三島市立向山小、同22日に県立東部特別支援学校(伊豆の国市)でも体験会を開く。杉村さんは4年前からポッチャ日本代表チームの主将を務める。17年シーズンは10月のワールドオープンで日本初となる国際大会の団体・個人の2冠を達成し、11月の日本選手権では2年ぶりの頂点に返り咲いた。実績を重ねて「日本のエース」との自覚も出てきた。「コート内外での先頭に立ち、競技の普及に努めたい」と言葉に力を込めた。(伊東支局・岩下勝哉)



参加者の前で投球を披露する杉村さん
 〓菅無町の伊豆介護センター

銀 伊東の杉村さん講演 パラ ボッチャ体験交流も

NPPO法人オールしずおかベストコミュニティ東部地区センター(沼津市)は28日、伊東市菅無町の伊豆介護センターで、リオデジャネイロ・パラリンピックのボッチャ競技団体銀メダルの杉村英孝さん(35)〓同市〓による講演と、ボッチャ体験交流会を開いた。杉村さんは夢を追う大切さや、仕事とボッチャの両立について、参加した福祉施設の関係者ら約40人の前で話した。

杉村さんは、ボッチャを高校3年から始め、「試合回数が増していくうちに、パラリンピックに出場して優勝したいと思うようになった」と説明。練習回数を増やしたり、体を鍛えたりし、日々目標に向かって努力し、2020年東京パラリンピックで優勝と目録を話した。仕事との両立のこつは、日々の業務を優先順位をつけて効率よく作業して

いると明かした。講演後のボッチャの体験会は、2ブロック、4チームに分かれた試合形式で行われ、参加者は勢いよく球を投げてボッチャに触れた。同市荻の障害者支援施設「碧の園」に通う伊代野あづささん(35)は「初めて体験した。まっすぐにボールが飛ばす難しかった」と話した。

③ (平成30年1月29日・伊豆新聞)



障害福祉事業所の職員を対象に開かれた経営セミナー
 〓静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター

静岡信用金庫(静岡市葵区)

障害者の自立を支援

長年にわたり身体、知的精神、発達などの障害者の雇用を続けている静岡信用金庫。障害福祉事業所を対象にした経営セミナーにも力を入れ、障害者の自立を支援している。障害者施設への古切手や書き損じはがきの寄付にも取り組んでいる。

経営セミナーは県中部の施設職員を対象に開催。同金庫職員が原価計算や価格

設定などの基礎的な内容のほか、販売戦略やインターネットを活用した資金調達方法などを解説している。施設利用者の工賃向上などを目指し、これまでに26事業所の137人が受講した。

50年以上続く古切手や書き損じはがきの寄付は、多くの障害者施設から感謝の声が寄せられている。

③ (平成30年2月6日・静岡新聞)

※経営セミナーは、当法人が県より委託を受け同施設「働く幸せ創出センター」内で主催した研修です。静岡信用金庫様は、当法人の会員様です。

「ヘルプマーク」配布開始

浜松市独自のカード導入検討

浜松市は5日、外見からでは分からない障害や病気のある人が援助や配慮を必要としていることを周囲に知らせる「ヘルプマーク」の配布を市役所などで始めた。

ヘルプマークは東京都が作成し、全国に広まりつつある。人工関節や義足、内部疾患、発達障害、妊娠初期など

市内7カ所の区役所で、配布時に職員がマークを必要とする理由を尋ねる。代理者が受け取ることも可能。



市役所などで配布を開始したヘルプカード
＝浜松市役所

「ヘルプマーク」の配布を市役所などで始めた。

ヘルプマークは東京都が作成し、全国に広まりつつある。人工関節や義足、内部疾患、発達障害、妊娠初期など

同市の2017年度分は1300個。配布場所は、市役所本庁舎2階の障害保健福祉課、市保健所（中区鴨江）2階の健康増進課、市内7カ所の区役所で、配布時に職員がマークを必要とする理由を尋ねる。代理者が受け取ることも可能。

③④ (平成30年2月6日・静岡新聞 西部版)

※記事にある「ヘルプマーク」配布は、静岡県より委託を受け当法人の会員事業所様に袋詰め作業を依頼して進めたものです。

見えない障害に配慮

県、ヘルプマーク配布開始

県は5日、内臓疾患や義足、人工関節など、外部から見えない障害のある人への配慮を促す「ヘルプマーク」の配布を始めた。

カバンなどに付けられるストラップ型（縦八杉、横五杉）のマーク

県は5日、内臓疾患や義足、人工関節など、外部から見えない障害のある人への配慮を促す「ヘルプマーク」の配布を始めた。



写真、県提供

県は5日、内臓疾患や義足、人工関節など、外部から見えない障害のある人への配慮を促す「ヘルプマーク」の配布を始めた。

ると、赤地に白の十字とハートが描かれたヘルプマークは、二〇二二年度に東京都庁が福祉関係団体と協力して作った。昨年七月には日本工業規格（JIS）にも登録され、全国で普及が進む。

障害のある人たちは、外見では症状や障害が分かりにくいのが、援助や配慮が必要な場合がある。県はヘルプマークの普及に向け、ポスターやチラシの作成とともに、十四日には静岡市駿河区のグラシップで集会を開く。参加無料。

(沢田佳孝)

※記事にある「ヘルプマーク」配布は、静岡県より委託を受け当法人の会員事業所様に袋詰め作業を依頼して進めたものです。また、14日の集会「ヘルプマーク推進フォーラム」は、当法人が運営致しました。

③⑤ (平成30年2月6日・中日新聞)

ヘルプマークを無料配布



援助や配慮が必要と周囲に知らせるヘルプマーク。かばんなどに取り付けて使用する

＝6日午前、県庁

県はこのほど、外見からは分からない内部障害の人や難病患者らが周囲に援助・配慮の必要性を知らせるための「ヘルプマーク」を1万個用意し、県内全35市町や保健所、県庁内で無料配布を始め、東

県はこのほど、外見からは分からない内部障害の人や難病患者らが周囲に援助・配慮の必要性を知らせるための「ヘルプマーク」を1万個用意し、県内全35市町や保健所、県庁内で無料配布を始め、東

14日に利用促進フォーラム

県、35市町などで1万個

京都が2012年度に作ったのをきっかけに、全国各地で導入されつつある。義足、人工関節、心臓病の人や妊娠初期の女性らを利用対象と想定している。

県は14日午後1～4時、ヘルプマークの認知度向上と利用促進を目的としたフォーラムを静岡市駿河区のグランシップで開く。全員の弁護士大胡田誠さんが「支え合いで共生社会の実現を」と題して講演し、県手をつなぐ育成会や県難病団体連絡協議会の担当者らがパネル討論する。定員200人。問い合わせは県障害者政策課へ電054(221)2352へ。

※記事にある「ヘルプマーク」配布は、静岡県より委託を受け当法人の会員事業所様に袋詰め作業を依頼して進めたものです。また、14日の「ヘルプマーク推進フォーラム」は、当法人が運営致しました。

③⑥ (平成30年2月7日・静岡新聞)

県は14日、外見から分からない内部障害のある人や難病患者らが周囲に救助や配慮を求めするための「ヘルプマーク」の推進フォーラムを静岡市駿河区のグランシップで開いた。

旧中伊豆町(現伊豆市)出身の全員の弁護士大胡田誠さん(40)が

ヘルプマーク 周知を考える

静岡でフォーラム



共生社会の実現について講演する大胡田誠さん＝14日午後、静岡市駿河区のグランシップ

「支え合いで共生社会の実現を」と題し講演した。大胡田さんは「配慮を求める側、配慮する側の建設的対話を通して、意思疎通することが大切」と強調。ヘルプマークについては「対話のきっかけを提

供する可能性を秘めている」と期待を寄せた。パネルディスカッションも行われ、関係者がヘルプマークを広める取り組みについて話し合った。

③⑦ (平成30年2月15日・静岡新聞)

※記事にある「ヘルプマーク推進フォーラム」は、静岡県より委託を受け当法人が運営して開催致しました。

故高松宮妃 京びな展示

グランシップ
来月4日まで 調度品600点も

徳川慶喜の孫にあたる故高松宮妃喜久子さまがご成婚時に持参した京びなを公開する「高松宮妃のおひなさま展」(県文化財団、県主催)が18日、静岡市駿河区のグランシップで始まった。3月4

日まで。

幅約6畳、高さ約3

・6畳の五段飾りには

おひなさまやお内裏様

など19体の人形をはじめ、たんすや鏡台とい

った調度品約600点が並ぶ。一つ一つに葵

の御紋が施された調度

品や精巧に作られた京びなに来場者は見入っていた。



故高松宮妃の京びなに見入る来場者
=18日午後、静岡市駿河区のグランシップ

品や精巧に作られた京びなに来場者は見入っていた。

会場付近では、市内12の福祉事業所の利用者や職員が手作りしたおひなさまにちなんだ小物やお菓子など約500点の販売も行われている。

③⑧ (平成30年2月19日・静岡新聞)

※記事にある、会場付近の販売会は、静岡県より委託を受け当法人が運営致しました。

就労支援NPOに
県労金が寄付金
県労働金庫(古川正
明理事長)は28日、障
害者の就労支援事業に
取り組む「NPO法人
オールしずおかベスト
コミュニティ」に4万
8千円を寄付した。静
岡市葵区の県勤労者
総合会館で贈呈式が
行われ、古川理事長が
同法人の鈴木良夫専
務理事に目録を手渡し



た。
寄付金は、ローンを
見直して家計の支出を
削減する「おまとめス
リムキャンペーン」を
実施した際に、契約獲
得件数1件につき10
0円を同金庫が拠出し
た。
同法人は寄付金を就
労支援事業などの運営
資金に充てる予定。

③⑨ (平成30年3月1日・静岡新聞)

障害者のアート楽しんで

磐田で絵や人形など100点展示

磐田市内で障害者施設「サンいわた」の通所者約百点、立野の磐田信用金庫豊田支店などで運営する「サ」者らのアート作品約百点、立野の磐田信用金庫豊田支店



通所者によるアート作品＝磐田市の磐田信用金庫豊田支店で

④ (平成 30 年 3 月 7 日・中日新聞)

田支店内のギャラリィで展示されている。ティッシュを丸め、色紙を貼り付けて作ったアニメやゲームのキャラクター、ひな祭りの折り紙人形、かわいらしいお化けの絵などが並ぶ。市のイメージキャラクター「しっぺい」のストラップや缶バッジ、実用的なアクリルたわしや巾着も紹介している。

障害者福祉の向上を目指すNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」の企画。担当者は「国内外で高まっている障害者アートを楽しんで」と来場を呼び掛けている。

(夏目貴史)



沼津 きょうまで授産品フェア

県東部の福祉サービス事業所の授産品を販売する「ありがとうフェア」が15日、沼津市大手町の沼津商連会館内にある「とも沼津店」で始まった＝写真＝。16日まで。同店はNPO法人オールしずおかベストコミュニティが運営している。

11事業所が出店した。施設利用者が手掛けたパンや弁当、木工品や靴下などの縫製品を販売する。16日は参加事業所で栽培した、御殿場リーフレタスを使ったハンバーガーを個数限定で販売する。

同法人の竹村寿美東部地区センター長は「事業所ごとの得意分野を生かした授産品を通じて

事業所の存在を知ってもらえたら」と話した。

④ (平成 30 年 3 月 16 日・静岡新聞)

とも沼津店、あ
りがとうフェア
きよう、人気の
商品限定販売も

沼津駅南口前の沼津
商連会館ビル一階、ど
も沼津店の年度末恒例
の「ありがとうフェ
ア」が十五日に始ま
り、きよう十六日も午
前十時から午後四時ま
で開催。先着五十人に
同店のコーヒー券をプ
レゼントしている。

フェアには県東部十
一カ所の福祉事業所が
参加し、新生活や新入

学、入社
祝いなど
にも使え
る木工、
陶芸、縫
製、雑貨
品をはじめ
め焼き立
てパンや
焼き菓子
などを販
売。きよ
うは社会
福祉法人
ステップ
・ワンに
よる水耕栽培のレタス
を使って人気の「御殿
場リーフレタスハン
パーカー」を個数限定
で販売する。

福祉事業所の自主製品などを一堂に販売
＝沼津商連会館ビル1階で



④ (平成 30 年 3 月 16 日・沼津朝日新聞)

※とも沼津店は、静岡県より委託を受け当法人が
運営しています。

浜北区 交通安全啓発に授産品採用

浜松市北区の就労支援施設「だんだん」は16日、利用者が作った遠州綿紬のキーホルダーを中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンター（浜北区）に引き渡した＝写真＝。春の全国交通安全運動（4月6～15日）の初日、啓発品として東区の東名高速道浜松インターチェンジ入り口で運転者に配られる。



交通安全メッセージ付きの200個を、同センターで利用者や職員計3人から受け取った赤川裕司保全担当課長は「啓発品配布で運転者に安全意識を持つよう促す」と話した。

だんだんは市内を中心に10～50代の精神障害者約50人が雑貨や菓子作りなどに取り組む。キーホルダーは障害者を支援するNPO「オールしずおかベストコミュニティ」（静岡市葵区）

の紹介で啓発品に採用された。

④ (平成 30 年 3 月 18 日・静岡新聞)

「しずおか授産品ブランド」に認定された洋菓子や小物、ジュースなどの製品＝県庁で

授産品ブランド



遠州綿紬カードケース、リールキーセットなど

10品追加

県が選ぶ「しずおか授産品ブランド」に洋菓子やジュース、小物製品など十製品が新たに認定された。二十一日から静岡伊勢丹（静岡市葵区）の八階催事場で販売する。県は二〇一六年度から、しずおか授産品ブランドを設け、授産施設などで障害者が生産する製品の付加価値を高めて販売促進する事業を進めている。いずれも素材や包装にこだわり、百貨店バ

イヤイなどから高い評価を得た。ふじやまラムを除く九製品に、ジャムやサブレなどを加えた計十四製品を販売。一部の製品は四月から、静鉄ストア（本社・静岡市葵区）の一部店舗でも扱う。

（沢田佳孝）

新たに認定された製品は次の通り（カッコ内は施設名）。

▽「Izurun」（草木染製品）（梅染工房ひかり、伊東市）▽「あしくぼあんデニッシュ」（フォルテあしくぼ、静岡市）▽「ペンチショコラ」（ラポール・タスカ

きょうから静岡伊勢丹で販売

・ペンチタイム、静岡市）▽「パウンドケーキ」と「Book型お菓子帳・通帳ケース」（みどり作業所、裾野市）▽「ふじやまラム（ラム肉製品）」（EPO EP OFARM、富士宮市）▽「富士山にんじん（にんじんジュース）」（就労支援センターNEST、富士宮市）▽「遠州綿紬カードケース、リールキーセット」（多機能事業所だんだん、浜松市）▽「富士山ピースストラップ」（はじめの一步、富士市）▽「県地域ゆるキャラグッズ」（障害者アイサービスホームすてっぷあっぷ、富士宮市）

④（平成30年3月21日・中日新聞）

※記事にある「しずおか授産品ブランド」は、静岡県より委託を受け当法人が各福祉事業所の意向に則した専門家を派遣し、さらに魅力のある商品を目指して改良を行う個別支援を行いました。また、静岡伊勢丹での販売会は当法人が運営致しました。

県認定授産品そろろう

静岡伊勢丹
きょうから 菓子や雑貨販売

障害のある人が働く
県内の福祉事業所で製
造された県認定ブラン
ドの授産品14品が21
27日、静岡市葵区の静
岡伊勢丹8階催事場で
販売される。

愛誠会アトリエ・ポ
ルト（静岡市葵区）の
「米粉シフォン」、春
風会アラム（伊豆市）
の「わさび染め製品」、
至空会多機能事業所だ

んだん（浜松市北区）
の「遠州綿細カードケ
ース・キーセット」な
どが並ぶ。

県が「しずおか授産
品ブランド」のお墨付
きを与えた授産品で、
2016年度に5品、
17年度に10品をそれぞ
れ認定した。真心込め
て一つ一つ手作りされ
た授産品の質の高さを
アピールし、販路拡大



しずおか授産品ブランドに認定されて
いる製品＝県庁

と施設利用者の工賃ア
ップに結び付ける。
明光会フォルテあし
くほ（静岡市葵区）の

④5（平成30年3月21日
・静岡新聞）

※記事にある「しずおか授産品ブランド」
は、静岡県より委託を受け当法人が各
福祉事業所の意向に則した専門家を派
遣し、さらに魅力のある商品を目指し
て改良を行う個別支援を行いました。

「あんデニッシュ」、
ココロネ就労支援セン
ターNEST（富士宮
市）の「富士山にんじ
んジュース」は4月か
ら、静鉄ストアの一部
店舗で販売される。問
い合わせは県障害者政
策課へ電054（22
1）3619へ。

朝市で授産品販売 25日に西区

浜松市西区雄踏町の
浜名湖ロイヤルホテル
ロビーで25日に開かれ
る朝市に、聴覚・ろう
重複障害者作業所「遠
州みみの里」（中区）
が出店する。午前9
11時。

10人ほどの作業所利
用者が作った遠州綿細
（つむぎ）の巾着や財
布、クッキーなどを販
売する。朝市はホテル
が毎週日曜に開催し、
静岡茶や釜揚げシラス
などが販売されている
。障害者の就労支援
などに取り組むNPO
法人オールしずおかベ
ストコミュニティがコ
ーディネートした。
今後は月に1回、市
内の障害福祉事業所で
授産品の販売会を開く
予定。問い合わせは同
NPO法人西部地区セ
ンターへ電053（4
58）7600へ。

④6（平成30年3月22日・静岡新聞）



障害者が生産した野菜などを販売した
マルシェ＝21日正午ごろ、静岡市葵区
の青葉イベント広場

施設利用者生産 野菜、ジャム販売 静岡でマルシェ

県は21日、静岡市葵
区の青葉イベント広場
で「農福連携しずおか
野外マルシェ」を開い
た。県内の9障害福祉
事業所が野菜やジャム
などの加工品を販売し
た。障害福祉事業所の
農業参入を後押しする
県の「農福連携」事業
の一環。事業所の職員
や利用者が各ブースで
リーフレタスを使った
ハンバーガーや野菜の
苗、ジャムなどを販売
した。

法人オールしずおかベ
ストコミュニティの松
井昌男支援課長は「農
業に取り組む事業所が
増えている。利用者の
やりがいづくりや工賃
の向上につながるれば」
と話した。売り上げは
事業所利用者の賃金に
充てられる。

運営を担ったNPO

④7（平成30年3月22日・静岡新聞）

1) 第20回 平成29年度静岡県授産製品コンクール



▲開会式



▲審査会

授産製品の品質向上と一般の方々への周知を目的として、毎年開催しているコンクールです。各部門の専門審査員と一般の市民から選ばれた市民審査員が、出展された授産製品を審査します。今回は20回目を記念し「20回記念賞」を設け、初めて出品された特別支援学校の生徒が製作した作品と事業所製品、各1点を人気投票で決定いたしました。出展福祉事業所数58、出品点数91点。特別支援学校15校、出品点数26点。
(障害者働く幸せ創出センター・平成29年10月5日)

・平成29年度静岡県障害者芸術祭（表彰式・受賞作品展示）



▲表彰式 授産製品コンクール 静岡県知事賞受賞者



▲午後のステージ バルーンパフォーマー「ともちゃん」

「夢いっぱいアートフェスティバル2017 静岡県障害者芸術祭」において、授産製品コンクールの表彰式が行われ、駅を利用する人々に授産製品をPRしました。会場には、平成29年度の授産製品コンクール受賞製品が展示され、午後のステージでは、バルーンパフォーマーや県内の障がいのある仲間たちのグループがパフォーマンスを披露しました。(静岡駅北口 地下広場・平成29年11月11日)

・静岡県授産製品コンクール受賞作品展示



静岡伊勢丹様では、企業理念に基づき地域の人々との触れ合いを大切に地域に根ざした社会貢献活動を行っています。昨年は、「授産品レベルアッププロジェクト」を御提案いただき、百貨店だからできる福祉事業所製品の支援を行なっていただきました。その一環として8階催事場において、静岡県授産製品コンクール受賞製品を展示していただき、多くの市民の皆様へPRを行なっていただきました。
(静岡伊勢丹・平成29年12月27日～30日)

2) 新春講演会



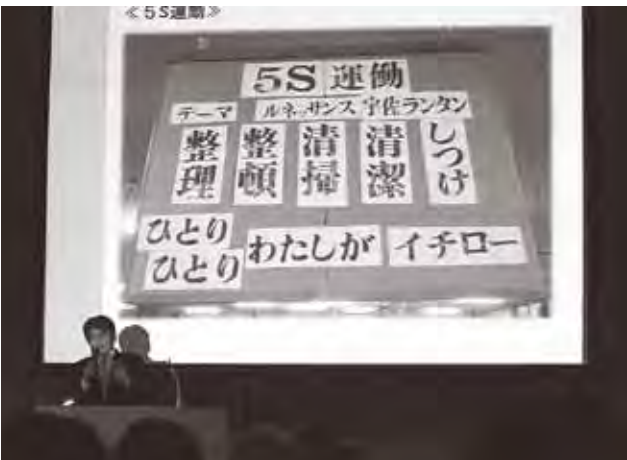
「働く障がい者を支えて」
会社の発展と障がい者が暮らしやすい地域づくりを
目指して!!

株式会社 宇佐ランタン 代表取締役 谷川実氏

(株)宇佐ランタンは大分県宇佐市にあり、ビニール
提灯の製造において、独自の技術確立で高品質の商
品開発と業界トップクラスの業績を上げている会社
です。社員の60%以上が障がいのある人で、日本の
伝統産業である提灯作りにおいて中心的な役割を
担っています。

障がいのある人が働きやすい環境作り、職場定着
の方法などを、失敗談や実際の作業風景などをまじ
え、分かりやすく講演していただきました。

(グランシップ・平成30年1月23日)



【主な受賞】

平成21年4月

経済産業省「元気なモノ作り中小企業300社」受賞

平成25年4月

経済産業省「ダイバーシティ経営100選」受賞

平成26年3月 経済産業省・日刊工業新聞社・法政大学

「日本でいちばん大切にしたい会社」審査員特別賞受賞



▲会場外のロビーでの「とも静岡店」授産製品販売会

3) 部会活動 研修情報部会による研修会

オールしずおかの会員で作る部会では定期的な意見交換を行ったり、自主研修を開催するなどして研鑽を高めます。



①事業所運営研修

講師：一般社団法人モリス 清水光弘氏

(障害者働く幸せ創出センター・H30年1月15日)



②個別支援計画研修 基礎編

講師：NPO法人障害者ケアマネジメント従事者ネットワーク 柏谷潤氏

(障害者働く幸せ創出センター・H30年1月17日)



③個別支援計画研修 応用編

講師：NPO 法人障害者ケアマネジメント従事者ネットワーク 柏谷潤氏
(障害者働く幸せ創出センター・H30年1月22日)



④企業に学ぶ人材育成

講師：第1部 静岡信用金庫 塩沢太郎氏
第2部 株式会社たご満 平松きよ子氏
(障害者働く幸せ創出センター・H30年1月25日)



⑤助成金研修

講師：一般社団法人ステップ・ワン 根上豊子氏
影山貴士社会保険労務士事務所 影山貴士氏
(障害者働く幸せ創出センター・H30年2月5日)



⑥加算研修

講師：社会福祉法人ひかりの園 浜松協働学舎 高木誠一氏
(障害者働く幸せ創出センター・H30年3月8日)

4) 認定 NPO 法人取得



当法人は NPO 法人として「障害のある人のはたらく笑顔で、福祉と企業、地域の心をつなぎます」の理念に基づいて活動し8年目となり、法人として社会的信頼を増し、寄付金の税制優遇措置を受けるため、認定 NPO 法人の取得申請をしてきました。

この度、静岡市より認定の通知をいただき、静岡市役所にて認定式を行ないました。静岡市では 11 番目の認定となりました。

(静岡市役所・平成 30 年 3 月 29 日)

福祉のお店・とも & テルベ

◆とも静岡店

(静岡市葵区駿府町 1-70 シズウエル 1 階)



とも

◆とも沼津店

(沼津市大手町 1-1-3 沼津商連会館 1 階)



とも

◆テルベ

(静岡市駿河区曲金 3-1-5 イトーヨーカドー 1 階)



テルベ



これらの店舗で静岡県内各地の授産製品を販売。障がいのある人の工賃向上を目指すとともに授産製品のPRを行います。

障害者働く幸せ創出センター

(静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階)



障がいのある人の雇用や就労に関するご相談、会議室の提供や、図書コーナー、授産製品の展示等のPRなど様々な活動を行っています。どなた様もお気軽にお越しください。

こんなご相談は、オールしずおかへ！

- ◎ ノベルティグッズに、障がいのある人の作った雑貨を使い社会貢献をしたい
- ◎ 福祉事業所に仕事を発注したい
- ◎ 障がい者雇用に興味があるが、どんな制度を使えるか知りたい
- ◎ 障がいがあり働きたいが、どこに相談してよいかわからない
- ◎ 授産製品の販路拡大のアイデアがほしい etc.



フレッシュな情報を発信中！

ホームページ オールしずおかベストコミュニティ

<http://www.all-shizuoka.or.jp/>

オールしずおかの活動がよくわかるサイトです。

Facebook ページ オールしずおかベストコミュニティ

<https://www.facebook.com/allshizuoka>

しずおか授産品 WEB カタログ

<http://s-seihin.jp/>

静岡県内の福祉事業所で作られている授産製品を閲覧できるサイトです。アイテムや地域などによる絞り込み機能や検索機能も充実。

認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

事務局

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階

TEL 054-251-3515 FAX 054-251-3516

Mail info@all-shizuoka.or.jp

公式 HP <http://www.all-shizuoka.or.jp>

